

アルミ缶 リサイクル ニュース

November

11
2017

Vol. 141



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminium Can Recycling Association

東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒104-0061

<http://www.alumi-can.or.jp>

平成29年(2017年)度 アルミ缶小・中学校回収協力者表彰

当協会は、アルミ缶回収を通じて環境学習の支援を行うため、(一社)日本アルミニウム協会の協賛を得て、当表彰を毎年実施しています。今年度は下記の62校を表彰しました。受賞校の皆様おめでとうございます。また、推薦をいただきました回収拠点の皆様には、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

受賞校一覧

新規受賞

- ① 弘前市立船沢小学校
- ② 中泊町立薄市小学校
- ③ 青森県立青森第二養護学校中学部
- ④ 南部町立名久井小学校
- ⑤ 青森市立浪打小学校
- ⑥ 板柳町立板柳北小学校
- ⑦ 藤崎町立藤崎小学校
- ⑧ 藤崎町立藤崎中央小学校
- ⑨ 湯沢市立湯沢西小学校
- ⑩ 大仙市立角間川小学校
- ⑪ 白鷹町立東根小学校
- ⑫ 宇都宮市立昭和小学校
- ⑬ 本庄市立児玉中学校
- ⑭ 新宿区立西新宿小学校
- ⑮ 八王子市立愛宕小学校
- ⑯ 川崎市立井田小学校
- ⑰ 魚沼市立守門中学校
- ⑱ 南魚沼市立六日町小学校
- ⑲ 市川三郷町立上野小学校
- ⑳ 飯田市立飯田東中学校
- ㉑ 大町市立大町東小学校
- ㉒ 大町市立美麻小中学校
- ㉓ 沼津市立今沢小学校
- ㉔ 浜松市立高台中学校
- ㉕ 豊橋市立松葉小学校
- ㉖ 香芝市立志都美小学校
- ㉗ 香芝市立五位堂小学校
- ㉘ 米子市立五千石小学校
- ㉙ 浅口市立金光中学校
- ㉚ 美祿市立別府小学校
- ㉛ 八幡浜市立双岩小学校
- ㉜ 神崎市立脊振小学校
- ㉝ 長崎市立山里中学校
- ㉞ 諫早市立小野中学校
- ㉟ 佐伯市立渡町台小学校

- 青森県
- 秋田県
- 秋田県
- 山形県
- 栃木県
- 埼玉県
- 東京都
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 新潟県
- 山梨県
- 長野県
- 長野県
- 長野県
- 静岡県
- 静岡県
- 愛知県
- 奈良県
- 奈良県
- 鳥取県
- 岡山県
- 山口県
- 愛媛県
- 佐賀県
- 長崎県
- 長崎県
- 大分県

再選受賞

- ① 白河市立信夫第一小学校
- ② 結城市立江川南小学校
- ③ さくら市立上松山小学校
- ④ 甘楽町立福島小学校
- ⑤ 熊谷市立奈良中学校
- ⑥ 練馬区立泉新小学校
- ⑦ 入善町立入善西中学校
- ⑧ 諏訪市立諏訪西中学校
- ⑨ 諏訪市立諏訪中学校
- ⑩ 諏訪市立上諏訪中学校
- ⑪ 美濃加茂市立三和小学校
- ⑫ 伊東市立富戸小学校
- ⑬ 沼津市立第一中学校
- ⑭ 裾野市立南小学校
- ⑮ 富士市立岳陽中学校
- ⑯ 伊勢市立倉田山中学校
- ⑰ 東近江市立愛東中学校
- ⑱ 加古川市立氷丘中学校
- ⑲ 田辺市立龍神中学校
- ⑳ 岡山市立建部中学校
- ㉑ 美咲町立柵原東小学校
- ㉒ 八幡浜市立江戸岡小学校
- ㉓ 東温市立川内中学校
- ㉔ 大洲市立大洲南中学校
- ㉕ 大洲市立大洲小学校
- ㉖ 大刀洗町立本郷小学校
- ㉗ 佐伯市立青山小学校

- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 東京都
- 富山県
- 長野県
- 長野県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 静岡県
- 静岡県
- 静岡県
- 三重県
- 滋賀県
- 兵庫県
- 和歌山県
- 岡山県
- 岡山県
- 愛媛県
- 愛媛県
- 愛媛県
- 愛媛県
- 福岡県
- 大分県



平成29年度リデュース・リユース・リサイクル (3R) 推進功労者等表彰

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会(3R推進協議会・細田衛士会長)は、10月の3R推進月間事業の一環として、平成4年度から3R推進功労者等の表彰を行っています。この表彰は3Rの推進に貢献している個人、団体などが対象です。今年度は、当協会が推薦した中で、八戸市立種差小学校(青森県)が内閣総理大臣賞を受賞しました。10月31日(火)にKKRホテル東京(東京都千代田区)にて表彰式が行われました。

受賞者の活動内容を以下に紹介します。詳細は、3R推進協議会のホームページを参照ください。

URL : <http://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/hyosho>



授賞式写真



内閣総理大臣賞

八戸市立種差小学校(青森県)

～美しい海と陸をいつまでも綺麗に～

はじまりは昭和43年「海岸清掃活動始動!」ゴミゼロ活動を目指して

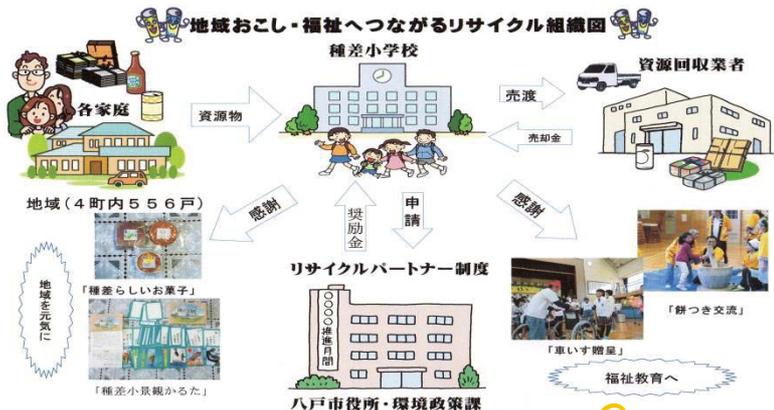
(1) どのような3R活動か

本学区は種差海岸に隣接し、海とともに栄えてきた地域であり、昭和43年から海岸線への漂着ゴミや空き缶拾い等の「海岸清掃活動」を行い、本校児童と保護者、地域住民が一体となり環境美化活動を地域全体で展開してきました。昭和60年に八戸市がリサイクル事業をスタートするに伴い、本校PTAでは平成元年に集団資源回収に参加し、28年間地域をあげて取り組んできた活動です。



(2) 取組のポイント、特長

学校・PTA・地域住民・行政(八戸市)・回収業者が連携してリサイクルに取り組んでいます。その発展として、地域住民の願いからお土産のお菓子、地域のおよ・郷土愛を表すカルタづくりへとつながり、地域コミュニティーの輪ができました。



平成29年度3R推進功労者等表彰 受賞お祝い会

表彰式後、如水会館「富士の間」(千代田区一ツ橋)にて受賞お祝い会を開催しました。受賞した八戸市立種差小学校の鈴木稔校長、岩沢裕子養護助教諭、小清水摂子前PTA会長、来賓として経済産業省製造産業局金属課長・小見山康二様他を迎え、その他報道関係者および協会関係者が出席しました。

冒頭に富永理事長より、「種差小学校では20人の児童、教職員、PTA、地域住民など、全体を巻き込んだ活動を行っている事が評価されて受賞に繋がったと思う。平成元年から継続されており、子供達が代々次世代に引き継いで来ており、これからは是非活動を継続して頂きたい」と挨拶があり、来賓の小見山金属課長は、「アルミは我々の身近なところで利用されており、我が国産業を支える基幹的な素材。3Rについて経済産業省では経済成長を持続する為には国民を巻き込んだシステム・運動が不可欠と考えている。アルミのリサイクルには草の根活動が不可欠であり、地域ネットワークの中核を担う学校がリサイクルのハブとなることが、きわめて重要であり、種差小学校では児童・保護者・地域住民が一体となって取り組まれている。こうした取り組み

が我が国のアルミ缶リサイクル率に大きく貢献している。今後も是非活動を継続してもらいたい」と挨拶されました。

最後に受賞された種差小学校 鈴木校長より、「学校・地域が継続してやってきたこと、当たり前に行っていることが評価されて受賞に繋がった。当初は種差海岸を大事にしていくことからスタートし、その後に資源リサイクルにも広がった。子供達の意識は非常に高く、これからは子供たちの自主性を育てる活動を続けていきたい」との御礼の言葉がありました。



授賞式写真



施設見学研修会

当協会は、3R 推進月間に合わせて、アルミ缶のリサイクルについて理解を深めていただくために、毎年「施設見学研修会」を実施しています。

今年は10月13日に、当日は終日雨降りの中、午前中は株式会社UACJ 深谷製造所、午後は株式会社ジャパンビレレッジエコロジーのリサイクル・プラザJBを訪問しました。経済産業省、報道関係及び協会会員会社の方々42名が参加されました。

深谷製造所見学の前に、富永理事長から、「UACJ深谷製造所は、現在は厚板が中心となっており、缶材の製造は行っておりませんが、基本的にアルミ圧延技術は厚いか薄いかでそう大きく変わらないと思っております。今日の見学会は短い時間ですが、有意義なものとなると思っておりますので、怪我の無いようしっかりと勉強して帰りたいと思っております。」と挨拶がありました。

経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課長 高角健志様からは、「アルミニウムはリサイクルに関する優位性の高い素材です。リサイクルは製造プロセスで重要なウェイトを占めていると考えています。アルミ缶のリサイクル率は昨年度92.4%を達成していますが、容器包装等のリサイクル全般では様々な課題があるので、今回の見学を通して色々参考とさせていただきます」とご挨拶を頂きました。

唐川英志深谷製造所長からは、「深谷製造所は今年4月で操業50周年を迎え、4月に記念式典を実施しました。かつてはアルミ缶用の材料を生産していたが現在では統合等による品種移管により缶材は生産しておりません。尚、工場内の挨拶は全て「ご安全に」ですので、声が掛かって驚かないで頂きたい。」と説明がありました。

この後、深谷製造所の概要説明後、生産工程を見学しました。午後は株式会社ジャパンビレレッジエコロジーのリサイクル・プラザJBを訪問しました。ジャパンビレレッジエコロジーの木村社長は、「今年で14年目を迎えます。ジャパンビレレッジの販売した埼玉・東京・千葉・一部群馬の空き容器を回収し、一日で約20~25トンの量を分別後リサイクルしています。これからは循環型社会の構築に向けて貢献したい。」と挨拶がありました。概要説明後、回収されたアルミ缶・スチール缶・ペットボトル・ガラスびんが選別され、アルミ缶・スチール缶がペレットになり、ペットボトルがプレス品になる工程を見学しました。また見学の中で右の写真の通り、回収されたものの中に異物が多数混入しており、容器の中に異物を入れないでほしいとのお願いがありました。

(1) 株式会社UACJ深谷製造所

株式会社UACJは、世界トップクラスのアルミニウム総合メーカー。深谷製造所は、板圧延を専業とする工場として1967年に操業を開始しました。以来、世界有数の設備と高い技術力・生産力を持つ、日本を代表するアルミニウム圧延工場として、現在では厚板を中心としたアルミニウム製品を生み出しています。



UACJ深谷製造所での記念撮影



(2) 株式会社ジャパンビレレッジエコロジー リサイクル・プラザJB

ジャパンビレレッジグループは、人々にうるおいを届ける"総合食品オペレーター"として1958年に創業され、2015年8月にサントリー食品インターナショナル株式会社の資本参加により、サントリー食品インターナショナルグループのグループ会社となりました。リサイクル・プラザJBは、缶・ガラスびん・ペットボトルなどの飲料空容器の中間処理を総合的に行う業界初のシステムとして2003年に稼働しました。処理工場の見学だけでなく、環境学習室での学習や研修などで年間約1,000名の方が活用しています。



リサイクル・プラザJB 選別した異物の写真



小樽CAN-ARTフェスティバル

北海製罐(株)主催

9月23、24日の2日間北海道小樽市観光物産プラザ「運河プラザ(三番庫)」で開催されました。このイベントは、楽しく創造豊かな「あき容器アート」を通じて、あき容器のポイ捨てをなくし、分別処理やリサイクルの大切さをアピールする北海製罐(株)の環境活動です。今年は第25回で「海中パラダイスへ“ようこそ!”～親子カメの遊々散歩～」をテーマに作品が展示されました。当協会はアルミ缶のリサイクル工程、あき缶で作った折鶴の展示とクイズを通じてアルミ缶をリサイクルすることの大切さを伝えました。



「親子カメの遊々散歩」のテーマオブジェ



第12回容器包装3R推進フォーラムin日本橋 「持続可能な容器包装3Rを目指して」(3R推進団体連絡会主催)

「容器包装3R推進フォーラム」は、自治体・市民・事業者等の様々な主体が連携して容器包装3Rを推進する場づくりを目的として、平成18年より毎年各地で開催されています。基調講演(吉岡 敏明 東北大学大学院環境科学研究科教授研

究科長)テーマ「持続可能な社会に向けて～新たな価値創造と資源循環のあり方～」、国からの報告(経済産業省、環境省、農林水産省)、事例報告(自治体、事業者、NPO)、パネルディスカッションが行われました。

第12回北区環境展

10月21日(土)北区立王子小学校体育館にて第12回北区環境展が開催されました。当日は台風が接近する中あいにくの雨・風でしたが、王子小学校の生徒・父兄・地域の方々含めて多くの来場者がありました。体育館での展示の他、アルミ缶リサイクル協会ではリサイクルに対する啓発活動として同日午前中には小学4年生を対象とした出前授業を実施しました。



体育館展示スペース



4年生出前授業風景

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

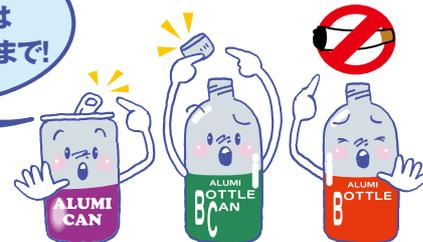
● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締め、回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。

アルミ缶の
リサイクルは
タブをつけたままで!



編集後記

- 秋がめつさり深まりました。今号より、編集を担当します小林です。編集作業もほぼ素人に近いので、皆さんのお力添えでよりよいリサイクルニュースにして行きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。
- みなさんこんにちは 佐々木 利子です。これから協会の事務局を担当しますので宜しくお願い致します。

アルミ缶リサイクルニュース第141号

発行日 平成29年11月29日
 発行人 森口 夏樹
 編集人 小林 裕
 発行所 アルミ缶リサイクル協会